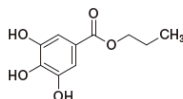


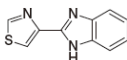
# 105-124

## 問題文

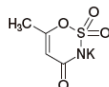
A



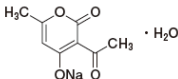
B



C



D



1. A～Dのいずれかを含む食品にその物質名を表示する場合、用途名も必ず併記しなければならない。
2. Aは酸型の保存料である。
3. Bは海外でポストハーベスト農薬として使用されているが、我が国では食品添加物の防かび剤に指定されている。
4. Cは脂溶性の酸化防止剤である。
5. DはpHによって効果が変化しない保存料である。

## 解答

1, 3

## 解説

選択肢 1 は妥当な記述です。

食品添加物の主な用途である8用途については、物質名＋用途名です。8用途は、甘味料、着色料、保存料、糊料（増粘剤、安定剤、ゲル化剤）、酸化防止剤、発色剤、漂白剤、防かび剤です。

選択肢 2 ですが

代表的な酸型保存料は、安息香酸、ソルビン酸、プロピオン酸などです。カルボン酸の一種です。Aは没食子酸プロピルです。酸化防止剤の一種です。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は妥当な記述です。

チアベンタゾールです。

選択肢 4 ですが

Cはアセスルフアムカリウムです。代表的「甘味料」です。酸化防止剤ではありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

Dはデヒドロ酢酸ナトリウムです。名前に酢酸とあることから pH により影響があると判断できるのではないのでしょうか。選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1,3 です。